



News Letter



竹内緑を支えるルワンダの会 No.25(2024年12月)



いかがお過ごしでしょうか。私は個人的理由で、紫陽花の咲く頃から彼岸花やコスモスの咲く頃まで、4か月半日本に滞在しました。世界でも日本に於いても歴史に刻まれる程の重大な事件が次々と起きて混沌としているように感じますが、戦火の中にある人々、苦難の中にある人々のことを思うと胸が痛みます。

さて10月下旬、長年イタベホのシェルター兼オフィスであった所を引き払って新しい場所に移りました。旧シェルターから程近い所で、古い建物ではありますが部屋数が多く、裏には野菜等を栽培できる広い畑があり、アボガドやグワバ、バナナの樹々が植えられています。今年はここでクリスマスを迎えることとなりますが、嬉しいことに二人の受益者が洗礼を受けることになりました。今回は、この二人についてお知らせ致します。

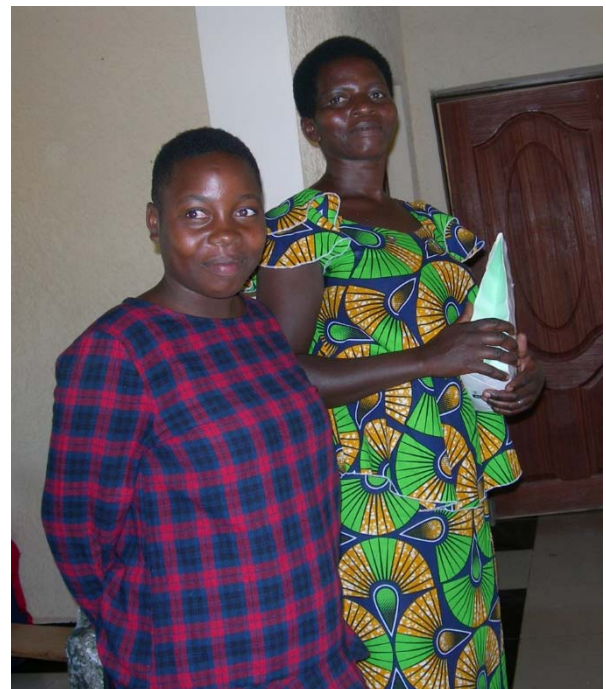


13歳の少女・ディビン.....

そのひとは、13歳で小学校6年生のディビンです。彼女は、2018年、姉のジェニンと共にイタベホへやって来ました。リリマには、ルワンダ軍の駐屯地があるため、売春婦が多数居住し、ディビン姉妹の実母はそのひとりでした。2018年初頭、姉妹は突然実母を交通事故で亡くし、身寄りもなく幼い二人だけで暮らしていました。その生活ぶりは、さながら路上生活者のようでした。そうしたある日、兵士によって姉が性暴力を受けたため、役所から二人をケアしてほしいとの依頼があり、受益者としてセンターに受け入れられました。

その1年後、ある家族からこの姉妹を養女に迎えたいとの申し出があり、二人共に養家一家の元へいきます。更に1年後、姉のジェニンは養父母との折り合いが悪くなって養家を出ていきます。以来、養家とは絶縁になりましたが、ディビンはそのまま養家に留まりました。そして今年4月、養父母から養女であるディビンとの関係を解消したい、との意向が示されました。7月、ディビンはセンターで暮らし始めましたが、養父母と暮らしたのは5年間でした。

13歳にしてこれだけのことを体験しているのは、哀れです。そして、このことによって深く傷ついていることでしょう。ジェニンと養父母との関係が破局に至ったのはやむを得ないとしても、ディビンとの関係において彼女に非はなく、原因は養父母の変節にありました。11月、私はここに至ったことをディビンに陳謝しました。私が詫びると、つぶらな瞳を大きく開いて無言のまま大粒の涙があふれるのでした。養父母から拒絶されたのは、彼女が何か過ちを犯したからだと自身を責めていたようです。



受洗したディビンと信仰上の母（信仰上の後見人）

私は彼女に、「あなたは、悪くないこと、問題は養父母にあったこと。私が生きている限り、あなたが大人になるまで私たちは守ります」と言いました。

私が変わるように祈って、と復学した 16 歳.....

もう一人は、16 歳で高校 1 年生の A です。彼女は、泥酔、盗み、売春、妊娠そして墮胎など、僅か 2 年余りの間に大きな事件を起しました。そのため、イタベホが授業料の支払いを停止したため高校退学を余儀なくされました。

彼女の母は、大虐殺に遭遇して両親と家族を失い、イタベホの中では最も重いトラウマを負った受益者です。A はその母に育てられました。A の兄と姉たちも事件を起しています。ひとりの人が周囲の人々に与える影響の大きさに考えさせられますが、A の背景は十分に同情の余地があります。

A は今年の初頭より復学したいと訴えてきましたが、彼女の真剣さを知るため即座に許可をすることはしませんでした。新学期が始まる 9 月、誓約書等を書かせて復学を許可しました。加えて、センターに入りたいとの彼女の強い要望で他の受益者と共に暮らし始めると、見違えるように明るくなり、現在喜んで学業を続けています。彼女は言います、「再び学びができるのは、神様の助けです。私が変わるように祈って欲しい」と。

このように複雑な事情のある二人が、キリスト者になることを決心したことは感動的です。出自がどうであれ、真に神と出会い人間らしく豊かな人生を歩んで欲しいと切に願います。



リリマのクリスマス祝会

リリマでも、12/22 にクリスマスの祝会が開かれました。クリスマスの参加者は、受益者とその子どもたち約 30 数人と、スタッフとその配偶者と子どもたち、総勢 50 人余りで主イエス様の誕生を喜び、祝いました。



参加者の集合写真
(新しいセンター内で)



クリスマスの食事風景（献立：蒸したかぼちゃ、キャベツのトマト煮、煮豆、ヤギの唐揚げ）個別のお皿ではなく大きな盆に並べられた食べ物を皆で一緒に、手で食べています。

クリスマスプレゼントは、今年もアメリカの中国教会の女性グループ（パッチワーク・シスターズ）、在ルワンダの日本人女性（昨年も頂戴しました）、日本在住の日本人女性から贈られたものです。



←クリスマスプレゼントを手に入れている子供たち

↓クリスマスプレゼントの中身（ノート、ボールペン、クレヨン、パンダのクッキー、ビスケット、リンゴ）



最後になりましたが、皆様のご支援とお祈りに感謝申し上げます。どうぞ、豊かなクリスマスをお迎えください。来る年の祝福と世界の平和を祈ります。



2024 年 12 月、キガリにて 竹内 緑



2024年の感謝なこと

1. 10年余り、自家用の車を持たないで公共の交通機関を使っていましたが、念願がかなって車を購入することができました。
2. 活動費が備えられ心身も守られて活動を続けることができました。
3. 先の報告でも触れましたが、複雑な事情を抱えながら傷ついた若い受益者二人が受洗しました。大きな喜びです。
4. 突然降って湧いたように起きたセンター引っ越しの件、短い時間で決めなければなりませんでした。が、良い所が与えられました。庭にはマンゴーの樹があり子供たちが登って食べています。広い耕作地には既に野菜やアボガド、バナナなどを収穫してセンターの食卓に上っています。
5. 9月末、私の不在中、NGOを統括する中央省庁が、突然センターにやって来ました。ルワンダ全土で調査しているそうですが、多数の質問をして帰って行きました。その後、難題を言われるであろうと懸念していましたが、事なきを得ました。



【ご支援・ご協力のお願ひ】



会費及び寄付金のお願い.....

「竹内緑を支えるルワンダの会」の活動にご賛同くださる方は、是非ご支援とご協力を頂けますようお願い致します。

年会費（会計年度1月1日～12月31日）

会員 一口5,000円 / 賛助会員 一口2,000円

※会費以外の寄付も随時お受けいたします。



会費・ご寄付の送金方法.....

○郵便振込（別紙払込取扱票又は郵便局備付けの払込取扱票をご利用ください）

郵便振替口座：01330-5-102074

加入者：竹内緑を支えるルワンダの会

○郵貯銀行振込

郵貯銀行口座 記号 15250 番号 3593801

ご連絡・お問い合わせ先：「竹内緑を支えるルワンダの会」事務局
〒680-0463 鳥取県八頭郡八頭町宮谷 224-1 日本キリスト教団八頭教会内
電話 0858-72-0075 E-mail: mtakeuchi.rwanda@gmail.com (竹内緑個人アドレス)